

畳表の黒変色茎発生に及ぼす品種特性、施肥条件

畳表筵面に発生する黒変色茎の主な原因は、部分変色茎と考えられ、イグサ栽培において追肥を基準より10日早く開始した場合に、より多く発生し、部分変色茎が少ない「ひのみどり」は、黒変色茎は少ない。

農業研究センター い業研究所 加工研究室 (担当者: 澤田 倫平)

研究のねらい

一部の畳表において、退色が進むと畳表に筋状の黒変色茎が現れ、これが畳表の品位を損なう理由となっている。その1つの原因として、生産現場で多収を目的として耕種基準より10日程早く追肥を開始していることが考えられる。そこで、高品質畳表生産を目的として、黒変色茎の原因及び畳表の黒変色茎発生に及ぼす品種特性、施肥条件を明らかにする。

研究の成果

1. 部分変色茎の中央部は、部分変色茎ではない茎と比較して、退色後茶褐色～黒褐色となる。また、部分変色茎の先枯れは、部分変色茎ではない茎よりも長く、退色後は先枯れ以上の長さの黒褐色となり、筵面に混入する。また、出芽時期が早い茎(古い茎)は、出芽時期が遅い茎(新しい茎)より、先枯れが長く、部分変色茎の割合が多いため、退色後、黒変色茎になる割合が高い。(図1、2、3)
2. 退色後に発生する黒変色茎は、原草長さ105～120cm及び120cm～において、「ひのみどり」より「岡山3号」の方が、また標準施肥より早期追肥(標準追肥より10日早く追肥を開始)で栽培した場合に有意に多く、施肥量、乾燥温度条件においては、有意差は認められない。これは、黒変色茎の原因と考えられる部分変色茎の割合が、「ひのみどり」より「岡山3号」の方が高く、また標準施肥時期より10日早く追肥を開始した場合、部分変色茎の割合が高い早期出芽茎が伸長増加するためと考えられる。(図3、4)

普及上の留意点

1. 耕種基準の追肥開始時期(収穫60日前)を守るにより、畳表の品質向上が図られる。

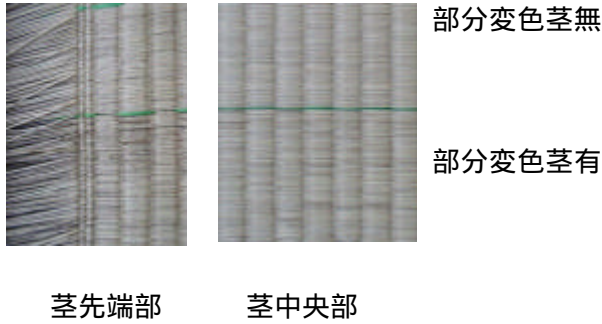


図1 黒変色茎発生状況

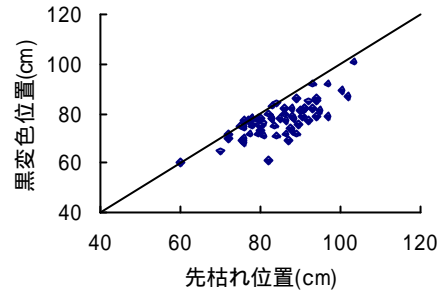


図2 部分変色茎の先枯れ位置（根元～先枯れ間の長さ）と黒変色位置（根元～黒変色箇所間の長さ）の関係

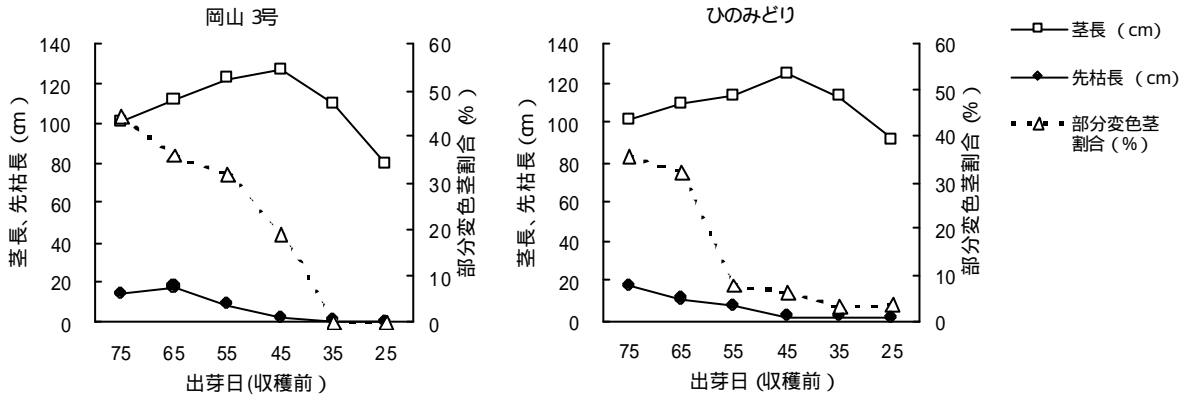


図3 各出芽日における茎長、先枯れ長さ、部分変色茎の関係

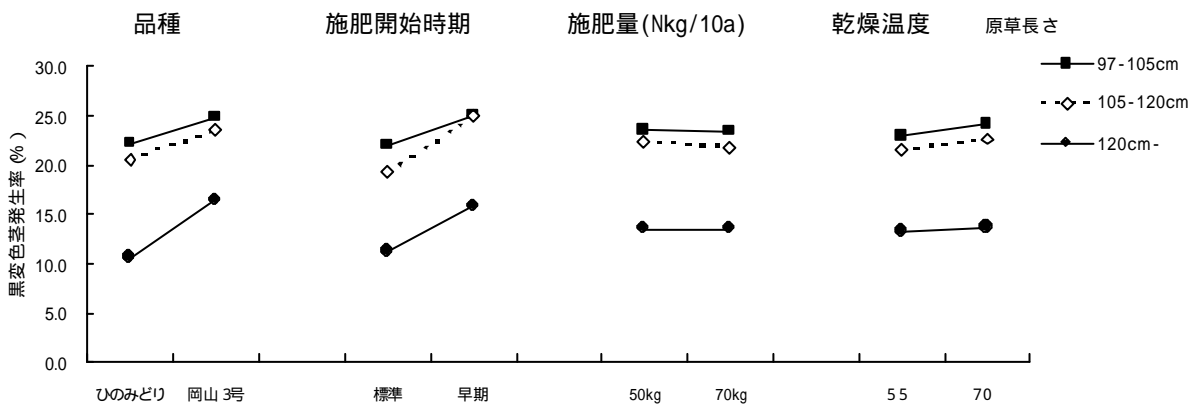


図4 各要因が畳表の黒変色茎発生に及ぼす影響
(調査箇所：端から4～5配目、退色条件：直射日光で20日照射)